

## あれこれ情報版



新型コロナウイルスの予防接種について、みなさまにはご心配とご迷惑をおかけしております。突然の「予約をキャンセルしてください」という神戸市からの通達には耳を疑いました。しかしワクチンが供給されないのなら私たちにはどうすることもできません。また神戸市から再開のお知らせなどが来ましたら1刻も早く接種していただけるよう、迅速に対応して参りますのでよろしくお願いいたします。また、当院では予約による予防接種を通常の診察と並行して行っています。そのため多少、診察順番に入れ替わりがあるかもしれませんが、ご了承ください。



当院のお盆休みは以下の通りです。

8月12日(木)から8月15日(日)



超音波検査機(エコー)を新調しました。診察室に設置しましたので気軽に検査を受けていただけるようになりました。



10月よりオンライン資格確認システムが稼働予定です。マイナンバーカードに保険証を組みこんでいただければ当院ではマイナンバーカード提示と顔認証により保険証確認ができます。詳しくは後日お知らせいたします。

# すこやか通信

'21 7-8月号 Vol.143



## 児島医院

内科・循環器内科・小児科・皮膚科

神戸市東灘区深江北町 2-8-26

☎078-431-0696

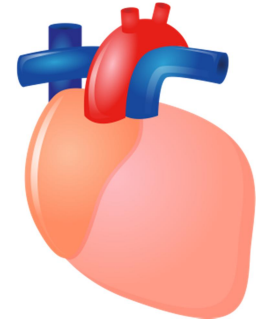
## 診察室こぼれ話

心臓が悪くなり、心不全になったという話はよく耳にされるかと思えます。心不全というのは心臓のポンプ機能が低下して全身の臓器が必要とする血液を十分に送り出すことができなくなる状態です。心不全はひとつの病気ではなく、心臓のさまざまな病気（心筋梗塞、弁膜症、心筋症など）や高血圧などにより負担がかかった状態が最終的に至る"症候群"なのです。心臓から血液が全身にうまく回っていかなくなると、心臓はなんとか血流を保とうとして、たくさん血液を溜め込むようになり、左心室の上流にある肺の血管に血液がうっ滞するようになります。こうなるとむくみ（浮腫）や動くときと苦しいといった症状が現れるようになります。

このように長い期間にわたって心臓に負担がかかる状態が持続すると心不全の状態になります。心不全になる原因としては、今までは心臓のポンプ機能の低下、心臓の収縮する力の低下であると考えられてきました。しかし、最近の研究で特に高齢者では収縮力が保たれているにもかかわらず、心不全になることが多いということがわかってきました。高齢者の心不全の半数は、左心室が硬くて広がりにくいために、心不全症状を呈する「拡張機能不全」というタイプの心不全であることが分かってきたのです。簡単にいえば、心臓へ血液が戻る力が弱くなっているため、うっ血が起こり、むくみなどの症状が出てくるのです。実際には、拡張能を正確に評価することが難しいため、「収縮機能が保たれた心

不全」（拡張不全）と呼ばれています。

従来の心不全である「収縮機能の低下した心不全」（収縮不全）と同じように予後が悪いということが疫学調査などから明らかになっており、収縮機能が正常だからといって、決して安心はできません。拡張不全は、収縮機能は保たれているため、症状が出にくいのが特徴です。収縮不全の場合、胸部X線で心陰影が大きくなっているなどの所見が認められますが、拡張不全では、こうした所見がはっきりしないことも多いのです。確定診断には、心エコー検査のほか、血液検査の脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)の測定が決め手になります。BNPは、心臓の筋肉から出るホルモンで、心臓に負担がかかっているとき、心臓が楽になりたいと出すいわばSOSのサインといえます。治療は薬物療法が中心となります。血液のうっ滞に基づく症状をとるために利尿薬や血管拡張薬などが用いられます。超高齢社会の日本では、潜在的な拡張不全の患者さんはかなり多いと推定されます。高齢者、女性に多く、高血圧や糖尿病・肥満のほか、心臓の病気などの基礎疾患を持っている人、とくに身体活動度の低い人に多いため、症状に気づきにくく、放置してしまうケースも少なくありません。わずかなサインも見逃さず、いつもと違う症状が現れたら、早めにかかりつけ医に相談して、検査を受けるようにしましょう。



（日本心臓財団のホームページから参照）